

景況調査

報告書 NO. 54

平成24年 1月～3月 実績
平成24年 4月～6月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成23年度第4四半期(H24. 1～3月)景況調査

1. 調査時点 平成24年3月5日～20日

2. 調査対象

(1) 対象地区

蒲郡市内

(2) 対象(回答)企業

137[130企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	54 (3)	12 (2)	19 (1)	31	14 (1)	7	137 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△19.0、前期実績(10～12月・△14.8)と比較すると4.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△25.6、前期実績(10～12月・△18.5)と比較すると7.1ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△31.4、前期実績(10～12月・△0.8)と比較すると30.6ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△27.7、前期実績(10～12月・△13.4)と比較すると14.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H24.4～6月)見通し**については△23.4、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △25.6)と比較すると2.2ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の繁忙期を過ぎ厳しい時期であった。海外展開と地産食材の利用に活路を見出したい。**織物**は、11月後半より順調に推移し1～3月は久しぶりに活況に満ちていたが、4月に入り停滞。**漁網・ロープ**は、復興需要でロープの繁忙は続く。建築・土木用に動きあり。他は例年並み。原油価格の高騰が懸念される。**鉄工**のうち、工作機械関係は外需で堅調も、円高や欧州景気低迷の影響が徐々に顕在化。自動車部品関連は、エコカー減税の復活による指定車種好調で繁忙も、海外生産移転により、先行きが懸念される。**化学・プラスチック**のうち、化学は、懸念されていた中国向けが停滞し、原材料高騰のなか厳しい状況。プラスチックは、生産額・売上額は前年同期比で増加。原材料価格も前期比横バイで、総合的には悪くは無い時期であった。

「**建設業**」は、公共工事の需要期で例年並みを確保も、民間工事が少なく厳しい状況。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>震災復興、また車両の挽回生産に伴った産業資材の動きが落ち着き、在庫調整の局面。<インテリア関連>受注量はさほど伸びず。また、従来製品に比べ加工に手間がかかった。

「**小売業**」は、年末の需要期を過ぎ、大型店主導型の価格下落のなか個人店は厳しい状況。一部季節もので動きは出るも、全体的には低調である。**飲食**は、忘新年会の動きは例年並み、歓送迎会利用も大幅増加は無い見込み。**石油**は、イラン情勢緊迫化による供給量不安を背景に、原油価格は100ドル台を超え高値で推移。今後も中東情勢に注目している。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、年間通じて昨年比微減で留まる。東日本大震災はじめ天災による企業団体や海外旅行客の減少や国内旅行の西日本へのシフトなど逆風のなか健闘。「春オンパク」等地域の魅力づくりを進めたい。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**のうち、輸出は国内製造業のサプライチェーン正常化で国内輸送は増加も、欧州・国内景気低迷等により在庫が増加し倉庫スペースが逼迫。中国景気の鈍化も懸念。輸入は国内消費低迷により停滞している。自動車輸出の回復に期待。**バス業界関係** 昨年比では回復傾向も、団体旅行から個人旅行へシフトが進む中、厳しい状況である。

設備投資状況は、28事業所(46件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は36事業所(49件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

当地区において 製造業が正常化するも、全業種当期実績では前期比で落ち込んだ。震災後の回復局面から新たな段階へとシフトしている。来期に向け、原油価格はじめ原材料価格高騰にが予測され、全般的に厳しい経営環境となる。新年度を迎え、当所としては、アクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

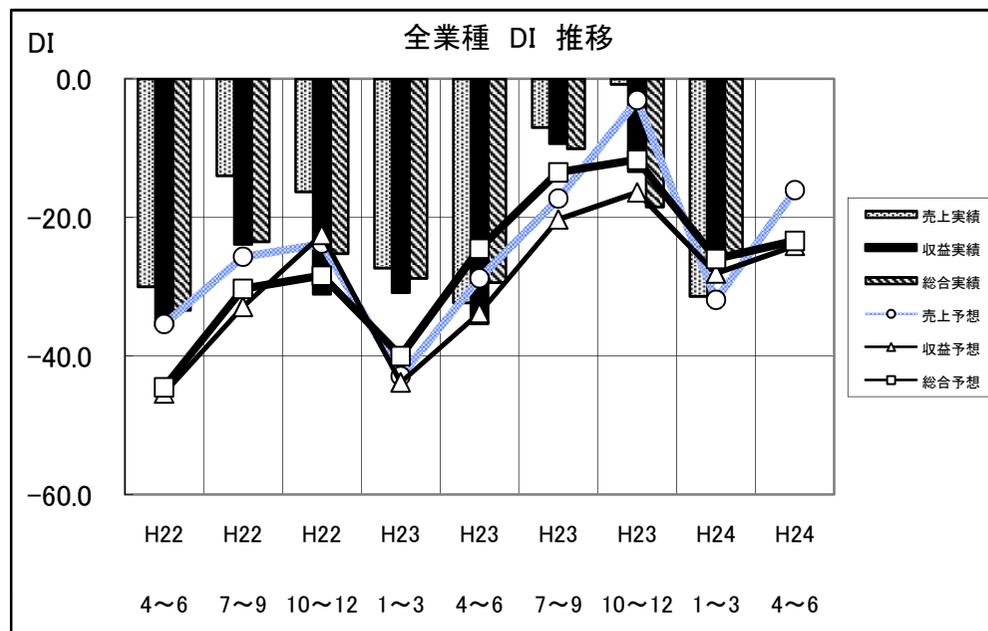
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-7.3	-31.4	-16.1	H23. 1～3月実績	-11.5	-27.3	-23.8	-30.9	-9.4	-28.8	-24.5
②製品・商品在庫	-11.0	-11.0	-10.2	H23. 4～6月実績	-28.5	-32.3	-32.6	-35.4	-27.1	-29.4	-13.5
③資金繰り	-15.3	-20.5	-19.0	H23. 7～9月実績	-6.2	-7.0	-18.7	-9.4	-11.0	-10.1	-11.7
④採算(収益)	-21.9	-27.7	-24.1	H23. 10～12月実績	-14.1	-0.8	-23.7	-13.4	-14.8	-18.5	-26.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.2	-2.9	6.5	H24. 1～3月実績	-7.3	-31.4	-21.9	-27.7	-19.0	-25.6	-23.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-19.0	-25.6	-23.4								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H22.4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H24.1~3月	4~6月見通し
売上	-30.0	-14.0	-16.3	-27.3	-32.3	-7.0	-0.8	-31.4	-16.1
収益	-35.7	-23.9	-31.1	-30.9	-35.4	-9.4	-13.4	-27.7	-24.1
総合	-33.4	-23.5	-25.2	-28.8	-29.4	-10.1	-18.5	-25.6	-23.4

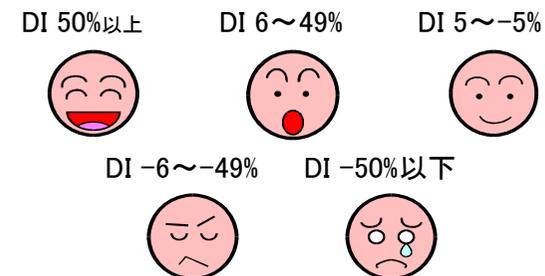
◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は△13.0、前期実績10～12月期(28.6)に比して41.6ポイントの下降、収益DI値は△5.6、前期実績10～12月期(8.9)に比して14.5ポイントの下降、総合判断DI値は△3.7、前期実績10～12月期(1.8)に比して5.5ポイントの下降と、売上・収益・総合共に悪化傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上は持ち直すも、収益・総合は下降傾向であり、先行きに不安も。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	18.5	-13.0	-1.9
②製品・商品在庫	1.8	1.8	-3.7
③資金繰り	-5.6	-9.2	-7.4
④採算(収益)	0.0	-5.6	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.4	3.7	20.3
⑥貴社の業況(総合判断)	3.7	-3.7	-12.9

[食料品]

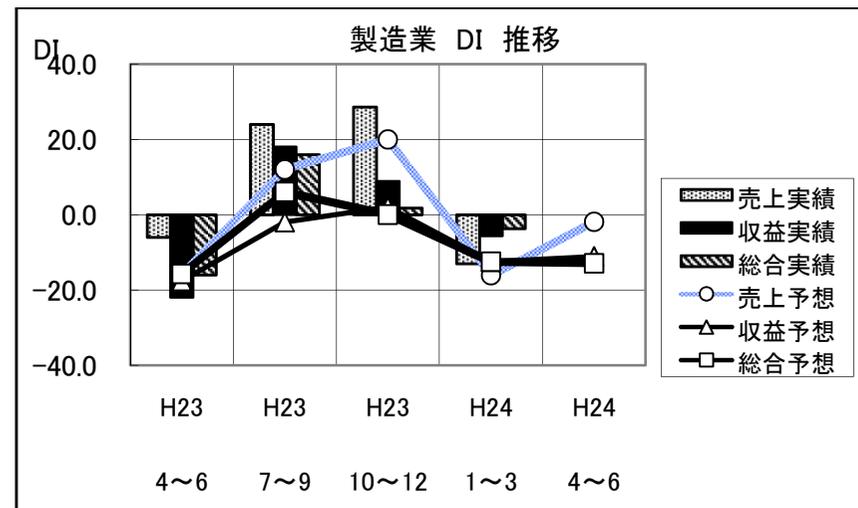
売上は、年末の需要期を過ぎ、前期比DI値は△33.3%と悪化。前年同期比でもDI値△16.7%と悪化の傾向にある。収益でも、前期比DI値で△16.6%、前年同期比でDI値△16.6%と悪化。原材料価格の上昇による影響を懸念する声が多い。総合判断では前期比DI値は△16.6%、前年同期比ではDI値△33.3%と業況は悪化しており厳しい状況にある。

向こう3カ月の見通し 売上はDI値△16.6%、収益DI値△16.6%、総合判断DI値△16.6%と業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされており、原材料コストの負担感に加えて、今後海外生産への依存が強まることが懸念される。こうした環境下で海外への販路拡大を目指し、地域性を売りにした商品開発に力を入れている企業も見られ、今後地産食材を活用していく動きが期待される。

(食料品)

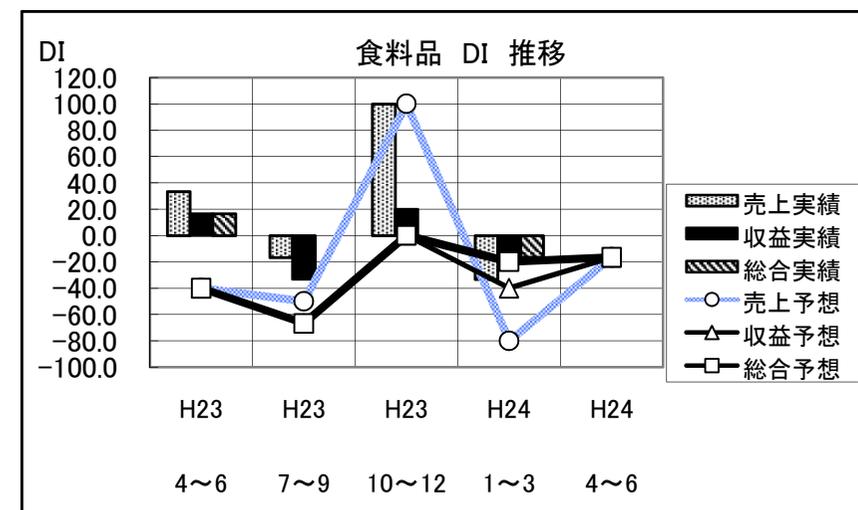
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-33.3	-16.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-33.3	-16.7	-33.3
④採算(収益)	-16.6	-16.6	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-16.6	-16.6



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-6.0	24.0	28.6	-13.0	-1.9
収益	-22.0	18.0	8.9	-5.6	-11.1
総合	-16.0	16.0	1.8	-3.7	-12.9



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	33.3	-16.7	100.0	-33.3	-16.6
収益	16.6	-33.3	20.0	-16.6	-16.6
総合	16.6	0.0	0.0	-16.6	-16.6

[織物]

11月後半より順調に推移し、1～3月は久しぶりに活況に満ちていたが、4～6月に入りインテリア・衣料等の商談に一服感は否めない。寝装、資材は堅調な展開である。

向こう3カ月の見通し インテリア商材は一部にドビー織機屋は満杯の状況である。ジャガード機屋は苦戦を強いられている。特にジャガードのドレープ調生地は完全に海外シフトが進んだと思われる。寝装品は初夏商材が最盛期を迎え堅調に推移。産業資材は可もなく不可もない。衣料の引合いは、あまりに少ない。

(織物) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	-33.3	16.6
②製品・商品在庫	-16.7	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-16.7	0.0
④採算(収益)	-16.7	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-33.3	-16.6

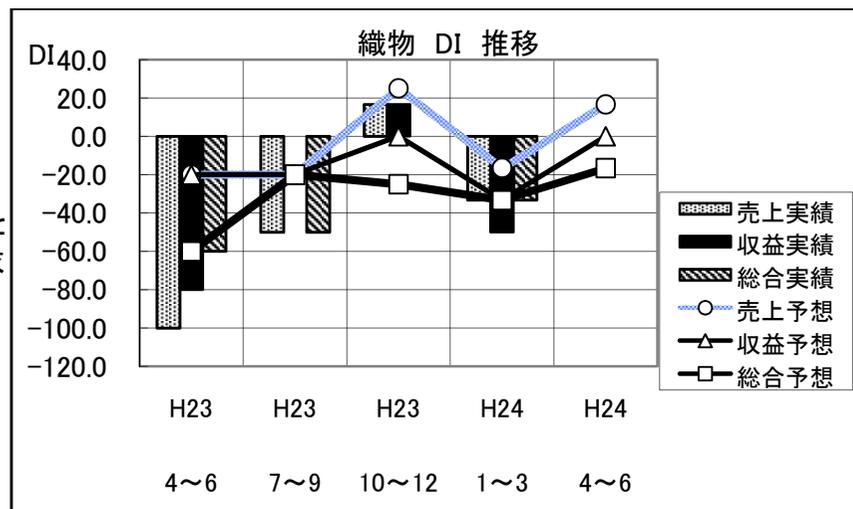
[漁網・ロープ]

ロープは復興需要により、引き続き好調であった。建築・土木にやや動きが出ている。漁網・スポーツは例年並みである。輸出は円高により厳しい。

向こう3カ月の見込み 復興需要により引き続きロープは繁忙。漁網関係は厳しいが、他は例年並みの見込みである。原油高騰に寄る原材料高が懸念される。(繊維ロープ部会)

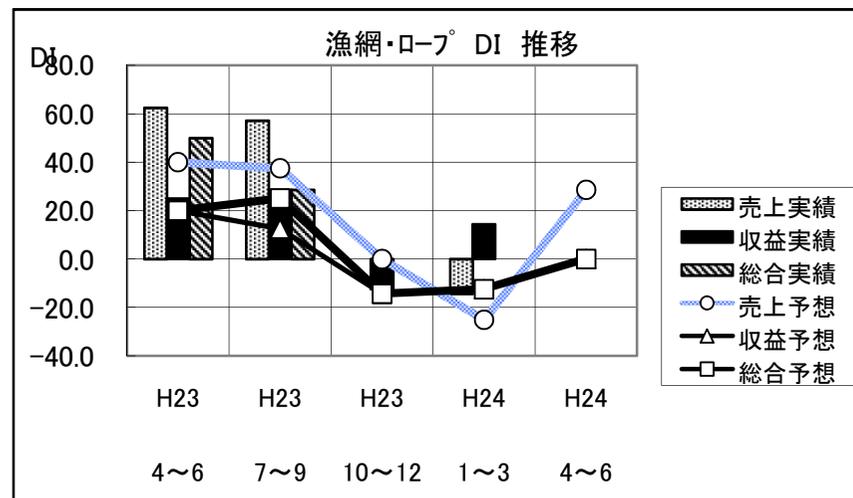
(漁網・ロープ) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	28.5	-14.3	28.6
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	0.0
③資金繰り	-14.3	-14.3	0.0
④採算(収益)	42.8	14.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	28.5	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-100.0	-50.0	16.6	-33.3	16.6
収益	-80.0	0.0	16.6	-50.0	0.0
総合	-60.0	-50.0	0.0	-33.3	-16.6



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	62.5	57.1	0.0	-14.3	28.6
収益	25.0	28.6	-12.5	14.3	0.0
総合	50.0	28.6	0.0	0.0	0.0

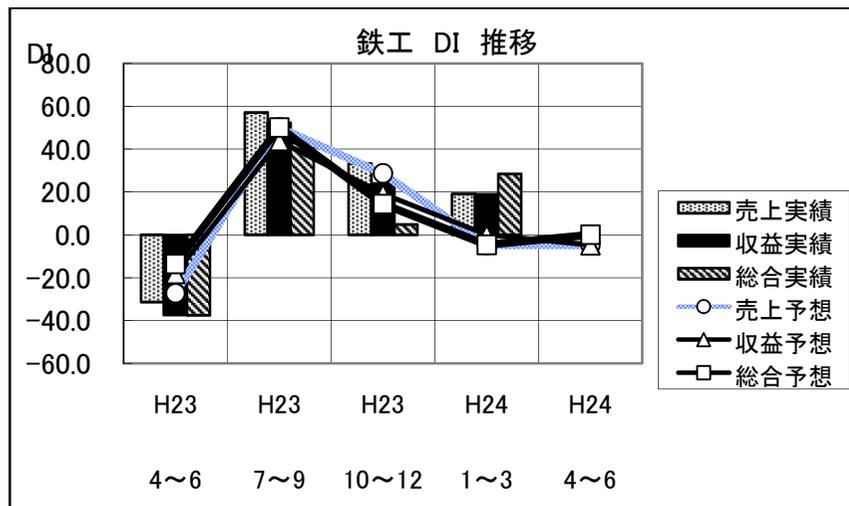
[鉄工]

＜工作機械関係＞ 国内生産は、依然として高い水準を推移。外需頼みの生産増が続く。受注は円高の影響で少し陰りが出始めている。受注先は、中国の需要でまだ維持しているが、ヨーロッパの低迷分を、アメリカ市場でカバーしている。向こう3カ月の見通し 国内生産は、現状の稼働状況が続き、特に増加要因はない。受注は、アメリカで安定した需要が見込まれるが、中国に関しては今後の動向を注視。ヨーロッパは当分需要が見込めない状況である。円高で機械各社は収益圧迫しているが、健闘している。2月は減少傾向と思われたが持ち直した。

＜自動車部品関係＞ 生産面で震災・洪水の影響は薄れ、エコカー減税の復活で減税対象車は繁忙。ただし、自動車各社は海外生産にカジを大きく切り、国内生産の海外向け車種は減少傾向。向こう3カ月の見通し 生産に関して、来期の生産計画を注視。今期中は増産体制であるが、円高による影響が発生。既に自動車各社は、インドネシアで大きな増産計画を発表し、増産計画は海外対応が際立ち、受注が取りにくい。受注量について、エコカー減税対象車でプラス傾向となっているが、国内生産は今以上の生産計画は不明。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	19.1	-4.8
②製品・商品在庫	14.3	14.3	0.0
③資金繰り	9.5	4.8	4.8
④採算(収益)	14.3	19.0	-4.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.9	28.5	42.9
⑥貴社の業況(総合判断)	23.8	28.5	0.0



＜業況判断DIの推移＞

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-31.3	57.2	33.3	19.1	-4.8
収益	-37.5	52.4	23.9	19.0	-4.8
総合	-37.5	42.8	4.8	28.5	0.0

[化学・プラスチック]

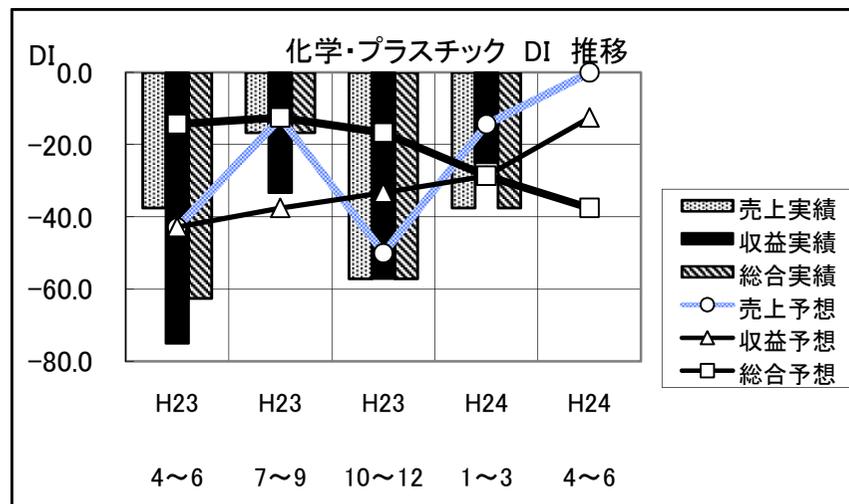
＜化学工業＞ 懸念されていた中国向けが大幅に減少している。
向こう3カ月の見通し 売上は堅調も、原油高騰による利幅縮小を懸念。

＜プラスチック＞ 生産額・売上額は前年同期比で増加した時期であり、原材料価格も前期比で横バイ。総合的には悪くは無い時期であった。

向こう3カ月の見通し 原材料価格の値上がりが見込まれており、収益を圧迫する事が決定的。厳しい環境になる見通しである。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	-37.5	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-12.5
③資金繰り	-12.5	-12.5	0.0
④採算(収益)	-37.5	-25.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	-12.5	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	-37.5



＜業況判断DIの推移＞

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-37.5	-16.6	-57.1	-37.5	0.0
収益	-75.0	-33.3	-57.1	-25.0	-12.5
総合	-62.5	-16.6	-57.1	-37.5	-37.5

建設業

売上DI値は△41.7、前期実績10～12月期(△30.0)に比して11.7ポイントの下降、収益DI値は△41.7、前期実績10～12月期(△70.0)に比して28.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△50.0、前期実績10～12月期(△70.0)に比して20.0ポイントの上昇。売上は悪化、収益・総合で改善傾向が見られるも以前として水面下の厳しい状況。公共工事は昨年並みの受注高も、民間工事は件数も少なく競争激化により受注高の減少に苦慮。採算は公共工事(土木)で民間工事分(建築)を補うとの声もあった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも改善。傾向であるが、見通しは依然として厳しい。年度当初で公共工事の発注量は少なく、当面は様子見である。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-41.7	-41.7	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	-8.4	-8.4
③資金繰り	-41.7	-41.7	-41.7
④採算(収益)	-50.0	-41.7	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-8.4	-25.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-41.7

卸売業

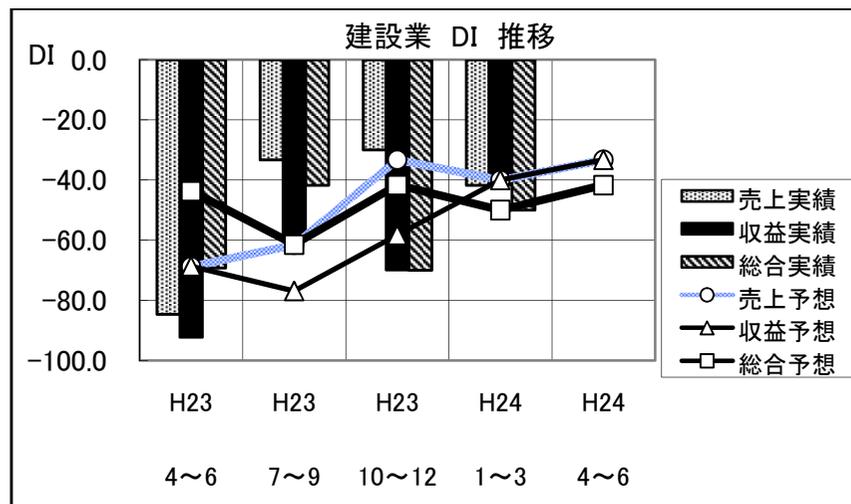
売上DI値は△68.4、前期実績10～12月期(△5.6)に比して62.8ポイントの下降。収益DI値は△21.1、前期実績10～12月期(△16.7)に比して4.4ポイントの下降、総合判断DI値は△31.5、前期実績10～12月期(△16.7)に比して14.8ポイントの下降と、売上・収益・総合共に悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに改善傾向にあるも、水面下にあり楽観視できない。

卸売業

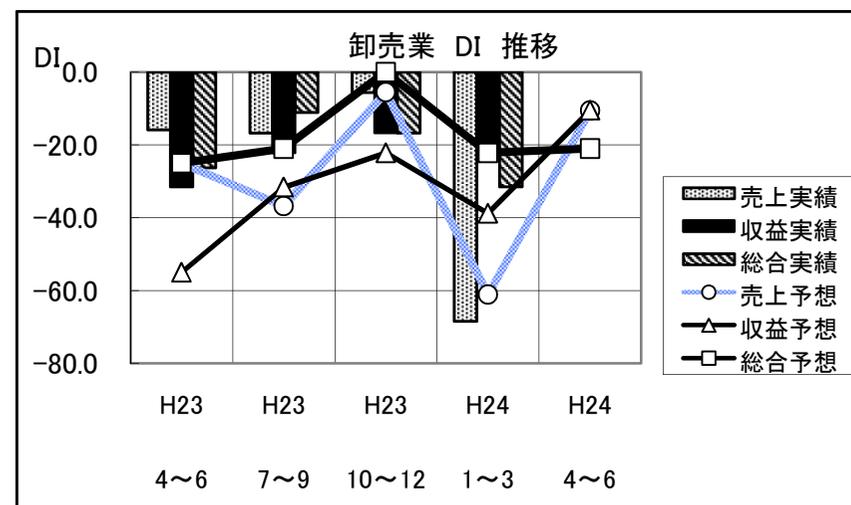
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-15.7	-68.4	-10.5
②製品・商品在庫	-52.6	-47.4	-36.8
③資金繰り	-5.2	-10.5	-15.8
④採算(収益)	-21.1	-21.1	-10.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.2	5.3	10.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.5	-31.5	-21.0



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-84.6	-33.3	-30.0	-41.7	-33.3
収益	-92.3	-58.3	-70.0	-41.7	-33.3
総合	-69.2	-41.7	-70.0	-50.0	-41.7



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-15.8	-16.7	-5.6	-68.4	-10.5
収益	-31.6	-22.2	-16.7	-21.1	-10.5
総合	-26.3	-11.1	-16.7	-31.5	-21.0

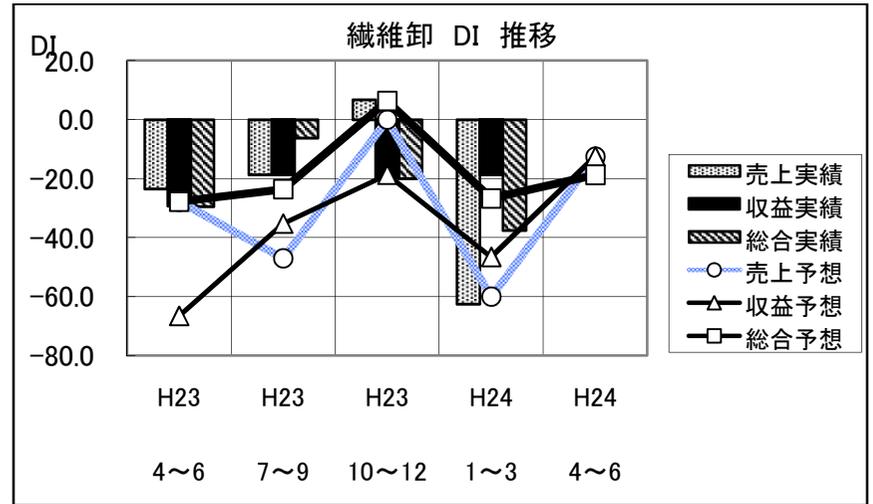
[繊維卸]

＜産業資材関連＞夏以降の東日本大震災復興の流れ、また車両生産の大増産に伴った産業資材の動きが落ち着き、在庫調整の対応を迫られている。向こう3カ月の見通し 産業資材関係の商品は通常水準に戻り、目先対応に終始する見込み。＜インテリア関連＞ 秋年明け以降の受注は予定を下回った。従来に比べ、加工納期がかかるため、商品手配の前倒しが必要であった。 向こう3カ月の見通しインテリアはシーズンオフとなる。春向けに前倒し生産した分をスムーズに受け渡すことが課題。秋・冬に備え商品開発に力を入れたい。（繊維部会）

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-18.7	-62.5	-12.5
②製品・商品在庫	-50.0	-56.3	-37.5
③資金繰り	-6.2	-12.5	-12.5
④採算(収益)	-18.8	-18.8	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.2	-6.2	6.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.2	-37.5	-18.7



＜業況判断DIの推移＞

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-23.5	-18.7	6.7	-62.5	-12.5
収益	-29.4	-18.8	-20.0	-18.8	-12.5
総合	-29.5	-6.2	-20.0	-37.5	-18.7

小売業

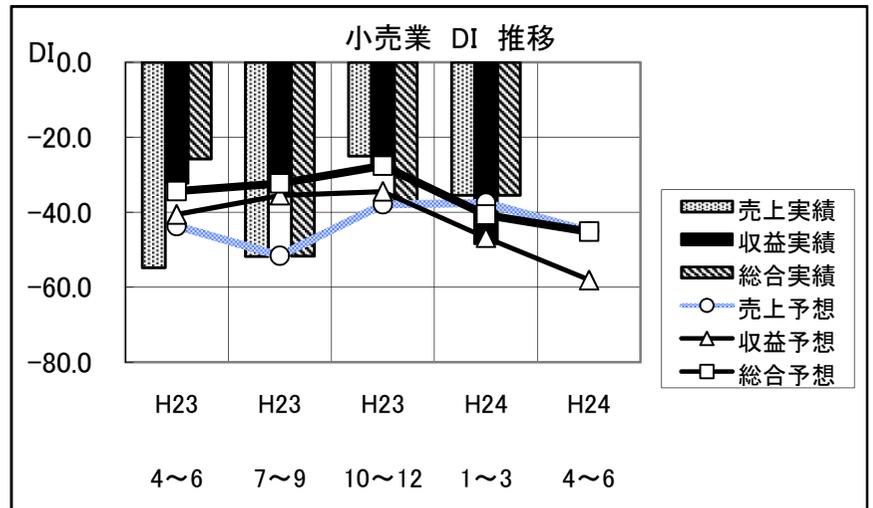
売上DI値は△35.5、前期実績10～12月期(△25.0)に比して10.5ポイントの下降。収益DI値は△48.4、前期実績10～12月期(△28.2)に比して20.2ポイントの下降、総合判断DI値は△35.5、前期実績10～12月期(△37.5)に比して2.0ポイントの上昇と、売上・収益は悪化、総合は横バイ傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断ともに悪化傾向にある。

商業界では、前年や前期に比べ売上額の減少が目立つ。大型店やフランチャイズ店の価格競争により商品が値下げ傾向にあり、個人商店がその価格に合わせることは売上減少や利益縮小に繋がり大変厳しい。 向こう3カ月の見通し 全体では売上額は低調に推移する見込み。ただし、一部の季節ものの商品を取り扱う店舗では、4月からの新年度・新学期により売上増加を見込む店舗もある。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-48.4	-35.5	-45.1
②製品・商品在庫	-16.1	-16.2	-9.7
③資金繰り	-25.8	-29.1	-35.5
④採算(収益)	-61.3	-48.4	-58.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.5	-3.2	-16.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-48.3	-35.5	-45.2



＜業況判断DIの推移＞

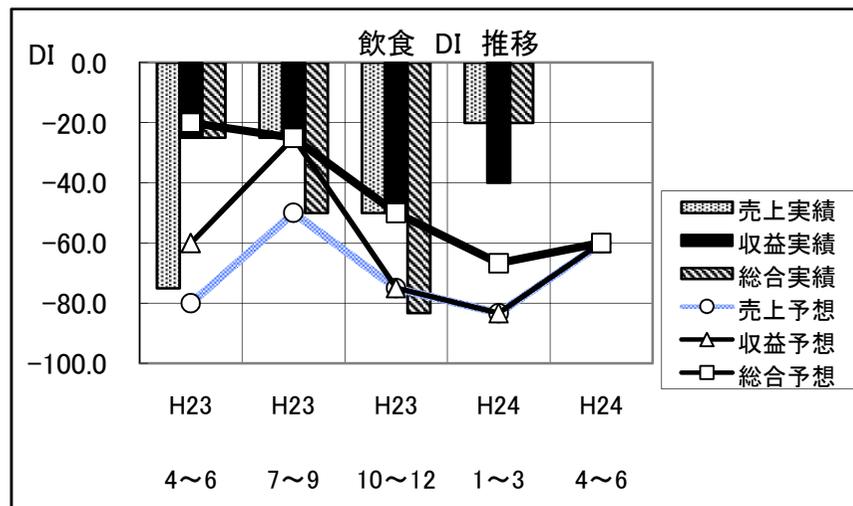
	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-54.8	-51.8	-25.0	-35.5	-45.1
収益	-32.3	-31.1	-28.2	-48.4	-58.1
総合	-25.8	-51.7	-37.5	-35.5	-45.2

〔飲食〕

景気低迷の影響を心配していたが、忘・新年会の客入りは団体・個人ともに例年並み。歓送迎会についても、大きな増減は無い見込みである。例年並みの客入り・売上を確保できるよう努力をする。
 向こう3カ月の見通し 新たに制作された名鉄沿線マップ・携帯向けアプリ等を通じて、地元飲食店を紹介する取組は賛成であり協力したい。「潮干狩り」シーズンに入るが、地元飲食店への立ち寄りには減少傾向である。6月の「あじさい祭り」また「ガン封じ寺」等への観光客は、地元飲食店利用があり有りがたい。アカザエビやメヒカリ等の地元食材や、地元特産品を使用したB級グルメへの期待感を持っている。現在、アイデア模索中であり、飲食業界として、蒲郡発のグルメを誕生させて盛り上げていきたい。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	-20.0	-60.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-40.0	-40.0	-60.0
④採算(収益)	-80.0	-40.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-20.0	-60.0



<業況判断DIの推移>

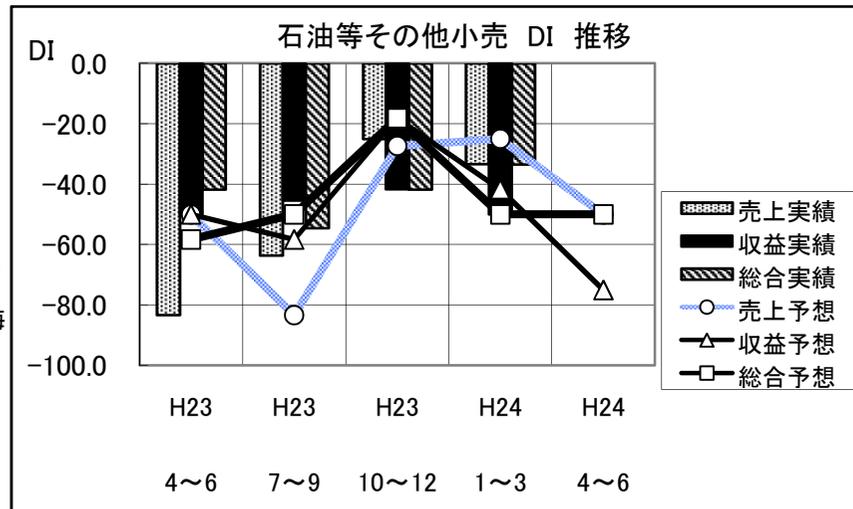
	H23.4~6月	4~7月	10~12月	H24.1~3月	4~6月見通し
売上	-75.0	-25.0	-50.0	-20.0	-60.0
収益	-25.0	-25.0	-50.0	-40.0	-60.0
総合	-25.0	-50.0	-83.3	-20.0	-60.0

〔石油等その他小売〕

原油価格(WTI)の推移をみると、EUによる禁輸制裁などイラン情勢の緊迫化による供給量不安を背景に、100ドル台を中心に推移。その後、いったん軟化した。その後、イラン情勢の緊迫化や米原油在庫減少、米雇用や住宅関連指標の改善を受け109ドル台へと上昇した。また、アジアの指標原油であるドバイ原油/東京市場も、2010年7月以来の高水準に達し、その後も高値で推移。主要元売会社(JX日鉱日石エネルギー、エクソンモービル、昭和シェル石油)も、イラン情勢緊迫化等による製品相場の全面高を受け、値上げを通知。ガソリンも同時に値上げされた。

向こう3カ月の見通し アジア等の新興国景気の底堅い推移が見込まれるものの、欧州景気は弱含み推移が予想され、需要面からの価格押し上げ圧力は小さい見込み。他方、イラン情勢の緊迫化や、シリア・イエメン等の情勢混迷を受け供給懸念が価格押し上げ要因となる可能性もある。また、イラン禁輸分の代替先も注視。一方、欧州債務問題や金融システム不安から、投資家がリスク回避する事で、原油価格が変動する局面も予測される。ホルムズ海峡封鎖の行方など、中東情勢に注目している。(エネルギー部会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-58.4	-33.3	-50.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-25.0
③資金繰り	-16.7	-16.7	-33.3
④採算(収益)	-66.7	-50.0	-75.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.4	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H23.4~6月	4~7月	10~12月	H24.1~3月	4~6月見通し
売上	-83.3	-63.6	-25.0	-33.3	-50.0
収益	-50.0	-45.5	-41.7	-50.0	-75.0
総合	-41.7	-54.5	-41.7	-33.4	-50.0

サービス業

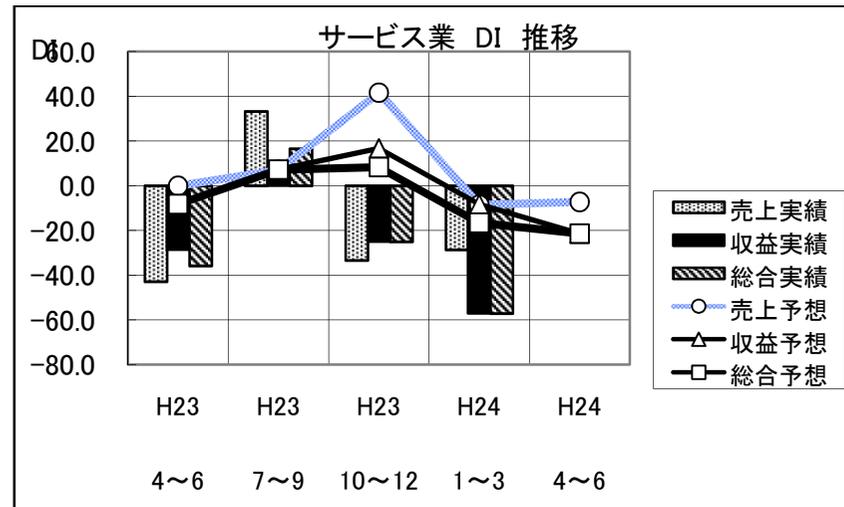
売上DI値は△28.6、前期実績10～12月期(△33.3)に比して4.7ポイントの上昇、収益DI値は△57.1、前期実績10～12月期(△25.0)に比して32.1ポイントの下降、総合判断DI値は△57.1、前期実績10～12月期(△25.0)に比して32.1ポイントの下降と、売上は横バイも、収益・総合は悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも改善傾向だが、水面下に留まる慎重な見通し。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	21.4	-28.6	-7.2
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-28.6	-50.0	-21.5
④採算(収益)	-14.3	-57.1	-21.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-28.6	21.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.4	-57.1	-21.4



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-42.8	33.3	-33.3	-28.6	-7.2
収益	-28.6	8.3	-25.0	-57.1	-21.4
総合	-35.8	16.6	-25.0	-57.1	-21.4

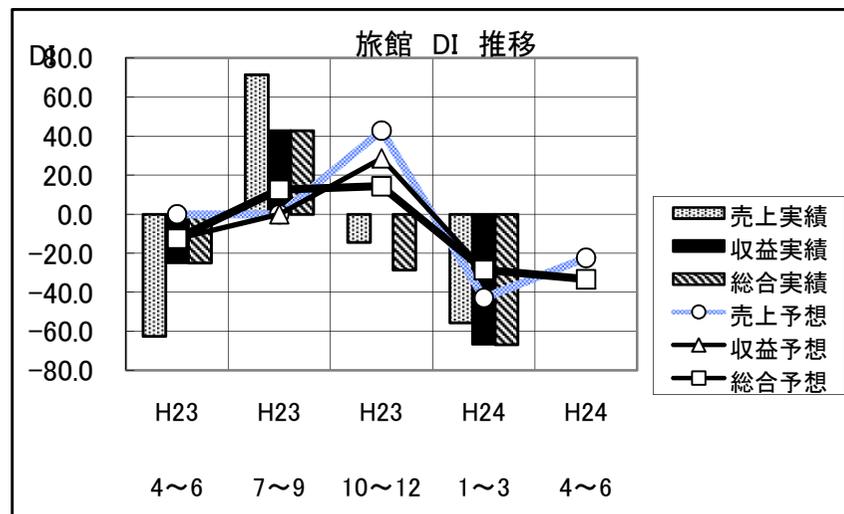
【旅館】

年末年始は、トヨタグループの動向による落ち込みが懸念されたが、宿泊者数は横バイで維持。しかし、消費単価は下がり、利幅は縮小した。また、トヨタグループの大幅な人事改革で、歓送迎会が例年よりも増える可能性がある。多くの方に宿泊して貰う取組・仕掛けを行いたい。昨年は、震災、台風、タイの大洪水など多くの天災が発生し、海外旅行客の減少や、国内旅行先も西方向(九州地方等)へシフトするトレンドのなか、当地区宿泊者数が前年比97.3%で耐えた事は、観光関係者の努力の賜物である。また、オンパクの開始や観光庁長官の来訪など、蒲郡の観光にとってターニングポイントであった。向こう3カ月の見通し GWに期待したいが見通しは不透明。一昔前は半年前から予約が動いたが、近年は間際予約が主流。また、昨年秋に引き続き、春オンパクが実施されるが、宿泊プラン造成等を通じ協力したい。蒲郡へ来た観光客に地域の魅力を感じ、再訪して貰うことが一番で、その延長線上に宿泊がある。オンパクは今後も継続すべき取組である。4月以降は、ラグーナ蒲郡10周年や潮干狩りがあり、豊川でもB-1グランプリも開催される。旅館・宿泊の魅力アピールしたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	11.1	-55.6	-22.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-22.2	-55.6	-22.2
④採算(収益)	-11.1	-66.7	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-33.3	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-66.7	-33.3



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-62.5	71.4	-14.3	-55.6	-22.3
収益	-25.0	42.8	0.0	-66.7	-33.3
総合	-25.0	42.8	-28.6	-66.7	-33.3

運輸通信業

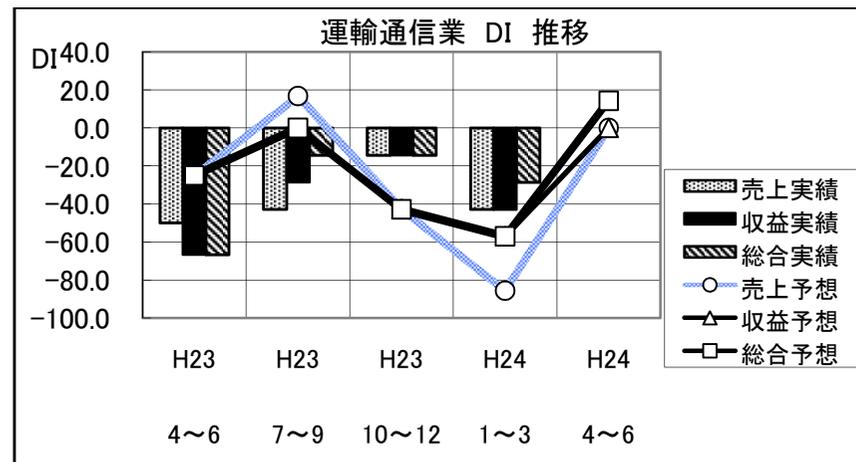
売上DI値は△42.8、前期実績10～12月期(△14.3)に比して28.5ポイントの下降、収益DI値は△42.9、前期実績10～12月期(△14.3)に比して28.6ポイントの下降、総合判断DI値は△28.6、前期実績10～12月期(△14.3)に比して14.3ポイントの下降と、売上・収益とも悪化傾向である。

向こう3カ月の見通しについては、売上・収益・総合ともに改善傾向である。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-42.8	0.0
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-14.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	14.3	-42.9	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-28.6	14.3



<業況判断DIの推移>

	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-50.0	-42.8	-14.3	-42.8	0.0
収益	-66.7	-28.6	-14.3	-42.9	0.0
総合	-66.7	-14.3	-14.3	-28.6	14.3

[旅客・貨物輸送・水運]

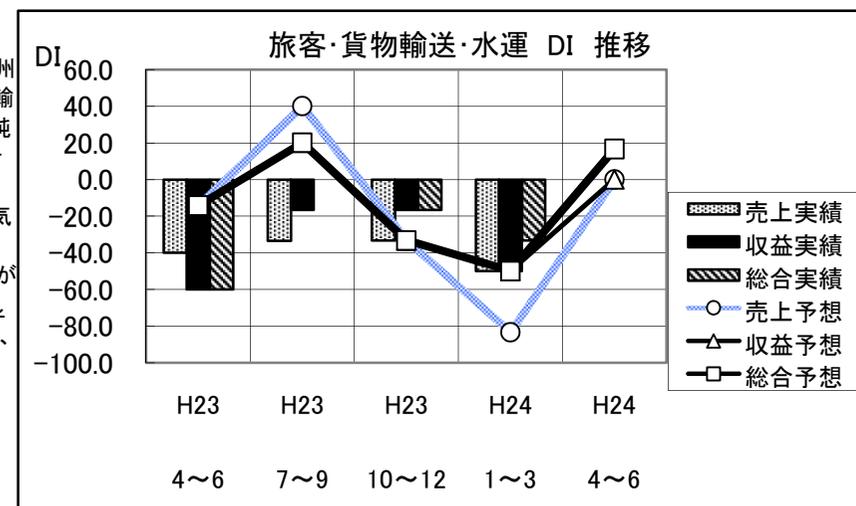
<貨物輸送> 製造業のサプライチェーン正常化に伴い、挽回生産による生産増が寄与し、国内輸送量は増加。ただ、欧州債務問題、円高、国内消費低迷で、在庫が膨らみ倉庫スペース不足が顕著。輸入は依然として低調で、中国・韓国からの輸入貨物も低迷が続く。木材等の原材料は対前年微増。輸出は、中国の旧正月による物流の一時停止や、景気減速により鈍い動き。完成車の輸出台数は保管施設の工事遅延の影響もあり、対前年比△64%。向こう3カ月の見通し 補正予算執行が本格化し、復興需要等・公共投資等の公的需要と製造業の挽回生産を背景に、国内輸送量は増加見込み。輸入は個人消費の減退により、木材等の原料は対前年微増に留まる見込み。輸出は、円高も落ち着き、前期より改善するも、欧州景気の停滞や中国景気の減速により動きは鈍い。完成車輸出は、前年同期の約2倍程度の見込み。

<バス業界関係> 昨年に比べ動きは出ているが、他社との競合で単価が下落。企業等の団体旅行が減少し、個人旅行が増加する傾向。消費者が、ネットを通じた直接予約が増え、旅行代理店の利用が減少し厳しい状況。向こう3カ月の見通し 桜を始めとする「お花見」、5月からの「東京スカイツリー」を目玉に商品を造成しているが、団体旅行の減少の影響は大きく、1～3月期より増加も、大きな伸びは見込めない。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年1月～3月 に比べて	前期比 平成23年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成24年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	16.6

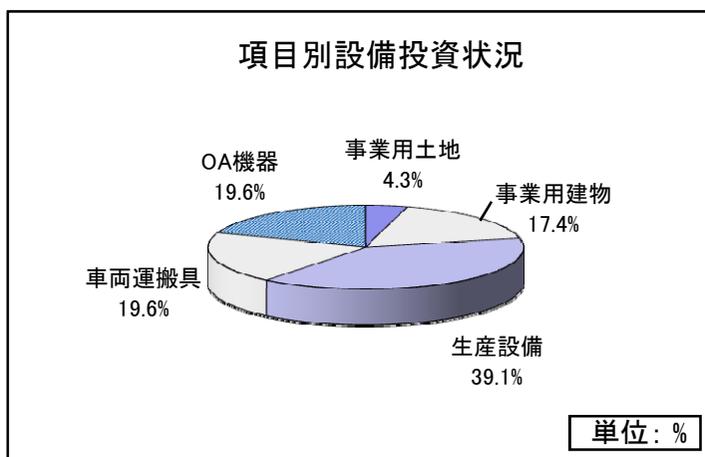
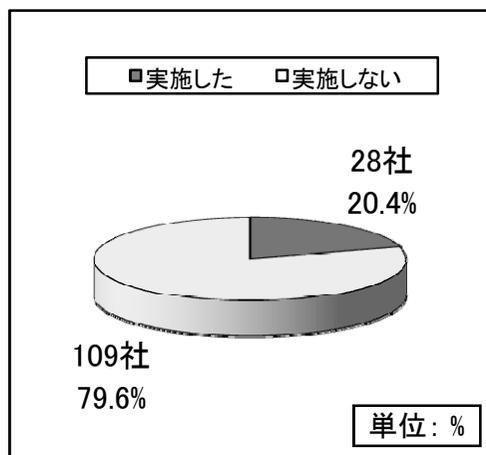


<業況判断DIの推移>

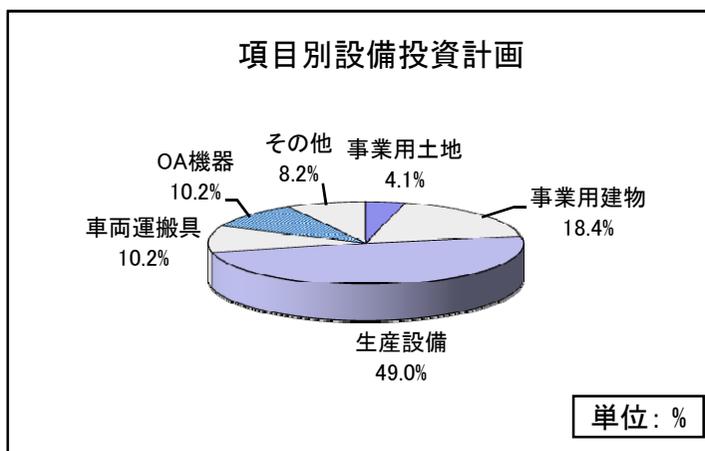
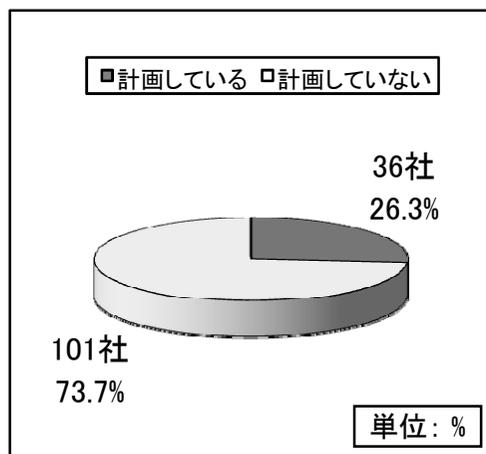
	H23.4～6月	4～7月	10～12月	H24.1～3月	4～6月見通し
売上	-40.0	-33.4	-33.3	-50.0	0.0
収益	-60.0	-16.6	-16.6	-50.0	0.0
総合	-60.0	0.0	-16.6	-33.3	16.6

7. 設備投資動向

＜今期(H24. 1～3月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H24. 4～6月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	2
事業用建物	8	9
生産設備	18	24
車両運搬具	9	5
OA機器	9	5
福利厚生	0	0
その他	0	4
計	46	49

(単位: 件)

◎今期(H24.1～3月)、来期(H24.4～6月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H24.1～3月)	28	15	1	4	1	5	2
2. 来期 (H24.4～6月)	36	21	1	3	3	6	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 137 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	85 62.0%
2	利幅の縮小	67 48.9%
3	競争激化	63 46.0%
4	原材料(燃料)高	44 32.1%
5	消費者ニーズの変化の対応	18 13.1%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 54 社	利幅の縮小 28 社 51.9%	売上の停滞・減少 24 社 44.4%	原材料(燃料)高 24 社 44.4%
建設業 12 社	利幅の縮小 11 社 91.7%	売上の停滞・減少 10 社 83.3%	競争激化 8 社 66.7%
卸売業 19 社	売上の停滞・減少 14 社 73.7%	競争激化 8 社 42.1%	利幅の縮小 8 社 42.1%
小売業 31 社	売上の停滞・減少 21 社 67.7%	競争激化 19 社 61.3%	利幅の縮小 13 社 41.9%
サービス業 14 社	売上の停滞・減少 10 社 71.4%	競争激化 5 社 35.7%	消費者ニーズの変化の対応 5 社 35.7%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 6 社 85.7%	原材料(燃料)高 4 社 57.1%	利幅の縮小 3 社 42.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.54

番号	調査項目	単位	H24. 4報告	基準日	H24. 1報告	基準日	H23. 10報告	基準日	H23. 7報告	基準日	出典
1	人口	人	80,498	H24.4.1	80,628	H24.1.1	80,658	H23.10.1	80,806	H23.6.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,462	H24.4.1	29,367	H24.1.1	29,319	H23.10.1	29,234	H23.6.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	50,613	H24.4.1	50,773	H24.1.1	50,785	H23.10.1	50,937	H23.6.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,139	H24.4.1	2,067	H24.1.1	2,048	H23.10.1	2,051	H23.6.1	〃
5	建築確認届出件数	件	87	H23.12～2月	107	H23.9～11月	130	H23.6～8月	102	H23.6.1	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.5	H24.2月	4.5	H23.11月	4.3	H23.8月 (※)	4.5	H23.5月 (※)	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.3	H23.10～12月	3.3	H23.7～9月	4.0	H23.4～6月	3.7	H23.5月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.75	H24.2月	0.69	H23.11月	0.66	H23.8月	0.61	H23.5月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.70	H24.2月	0.76	H23.11月	0.64	H23.8月	0.43	H23.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く前年比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	115.2	▲ 3.8	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	116.9	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	114.7	▲ 0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	124.2	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.3	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.6	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	115.2	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	122.7	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月					66,928				33.3
3月									49.7

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。